

阿賀野市農業技術情報

NO・1 令和5年 4月号
阿賀野市農業振興協議会

健苗を植えて気象変動に強い丈夫な稲づくりで 高品質・良食味・安定収量の阿賀野市産米を作りましょう。

1 基 肥 （ 効果:生育の安定確保 ）

◎高品質・良食味米生産のためには、土壌条件にあった施肥量で適正な生育量を確保しましょう。

◎基肥は水稻の栄養生長量を確保するために施用しますが、多用は過剰生育を招き、倒伏の原因となるので、
適正な窒素濃度(葉色)を有効分けつ終止期が過ぎる頃まで維持できる量とし、良質茎確保に努めましょう。

※砂質で中期に肥切れするほ場では、基肥窒素成分の内1kgは緩効性肥料を施用する。

◎有機質肥料は肥効が緩やかなため初期生育の確保や老化苗に、べんとう肥(15g/箱)を施用しましょう。

2 ほ場の均平・代かき （ 効果:生育の平準・除草剤効果の安定・環境保全 ）

◎ほ場の高低差が大きいと稲の生育が不均一となります。高品質・安定多収のために、可能な限り整地しましょう。

◎水持ちの改善や除草剤の処理層を均一にし残効性を高めるため、碎土が細かい丁寧な代かきをしましょう。

※春草が多く発生しているほ場では、いつもより少ない水で代かきを行い草を確実に土の中にもぐす。

※耕起時に一発肥料(コーティング肥料)を施用したほ場は、浅めの入水で代かきを行い自然落水で水位を調整する。

3 田 植 え （ 効果:適期・適性品種で品質維持 ）

◎コシヒカリ(中生)は出穂期～登熟期の高温登熟を回避するため、5月10日以降に移植しましょう。

また、晩生品種は出穂後の積算温度を確保し品質を下げないために5月20日頃までに田植えを終える
ようにしましょう。

※多収性品種(早生)一早植えて早期分けつを確保 ・ 多収性品種(晩生)一遅植えせず成熟期を早める。

◎田植えは2. 0～2. 4葉までの健苗を好天の日に行いましょう。(プール育苗は植え痛みしやすいので注意する。)

※老化苗を移植すると活着が遅く、低温時では初期分けつの発生が劣るので注意する。

◎ほ場整備後水田では、倒伏しやすい品種・いもち病の発生しやすい品種の作付けは避けましょう。

◎穂数の安定確保・過繁茂、細莖化を防ぐため栽植密度は50～60株/坪(15箱/50株、18箱/60株=10a箱数)。

※高地力や大豆跡の生育過剰傾向の水田や、常強風地帯など莖数が確保しにくい地域は栽植密度を調整する。

◎植付深さは2～3cmとし初期分けつを促進させましょう。 ※浅植え一葉害、浮き苗。 深植え一分げつ抑制。

◎いもち病の発生源になる恐れがあるため、補植後の苗は速やかに撤去しましょう。

4 病 害 虫 防 除 （ 効果:斑点米防止で等級落ちを回避 ）

★カメムシ類による斑点米の発生防止対策を徹底しよう! 『3・2・1・0運動』

3週間おきに**2**回の一斉草刈りで、出穂後**1**回の地域一斉防除を徹底し、斑点米**0**(ゼロ)を目指しましょう!

※田植え前後、農道・畦畔のこまめな除草を実施。 (カメムシの住み処を作らせない)

※多年生雑草が優占している休耕田は適切な除草を行う。また、殺虫剤などでカメムシ類等対策に努める。

※早生品種では適期2回防除(個人防除+共同防除等)を実施し、斑点米の発生防止を徹底する。

※昨年被害発生があった地域では、コシヒカリでも2回防除(共同防除+個人防除)を実施する。

◎水稻育苗箱施用剤の種類と対象病害虫

区 分	薬 剤 名 (○数字は農薬成分数) (ーは化学合成農薬ゼロ)	対 象 病 害 虫						
		いもち病	もみ枯 細菌病	紋枯病	イネド ロ オイムシ	イネミス ゾウムシ	ニカメイチュウ	イナゴ
殺 虫 剤	① パディート箱粒剤				○	○	○	○
	ーゼロカウント粒剤				○	○(幼虫)	○	
	① ワンリード箱粒剤08				○	○		
殺 菌 ・	② ツインターボ箱粒剤08	○	○		○	○		
殺 虫 剤	③ エバーゴルフオルテ箱粒剤	○		○	○	○		

5 除 草 体 系 ※除草体系は裏面に記載しております。

6 初 期 の 水 管 理 （ 効果:良質茎の早期確保・根の健全化 ）

◎移植後は速やかに入水し、保温的水管理(5cm)で植え痛み防止、除草剤効果を高め、葉害防止に努めましょう。

◎活着後(田植え後8日)はやや浅水(2～3cm)とし、水温の上昇を図り分けつ発生を促し、良質茎を早期確保しましょう。

◎春雑草の生すき込み等により、ワキの発生が多いほ場については、夜干し・水の更新等を行いましょう。

※水を更新する場合は早朝に灌水し、日中は止水とし水温の上昇を図る。

◎アオミドロの発生が多いと初期生育不良の原因となります。(有機物やチッソ、リン酸等が多い、水温が高まると発生)
効果のある除草剤の使用または、水の更新、落水により田面を軽く干すなどの対策で発生を抑えましょう。

7 中 干 し ・ 溝 切 り （ 効果:過剰生育の抑制・根の発育促進 ）

・中干し・溝切りで生育を調整し、生育後期の稲体を健全に保ち登熟を良好にする。

◎移植後30～35日(目標穂数の80%確保。280本/m²)で直ちに実施し、梅雨入り前に中干しを開始しましょう。

※地力の高いほ場では、目標穂数の70%確保(250本/m²)時に行って下さい。

◎中干しの目安一ヒビが入り、軽く足跡がつく程度。

◎出穂の1ヵ月前までには中干しを終了しましょう。

※終了が遅れ、生殖成長期以降となると根域が縮小し根量が少なくなり、出穂後の葉色低下が大きく、等級低下を招く。

◎溝切り間隔一8～10条に1本、縦溝と横溝を繋ぎ末端を排水路に接続、溝の深さは10cm以上を確保しましょう。

中 干 し ・ 溝 切 り の 効 果

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ① 過剰分けつの発生抑制による適正生育量の確保。 | ④ 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保。 |
| ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減。 | ⑤ フェーン等の緊急時の迅速な灌水。 |
| ③ 土壌への酸素供給による根の健全化。 | ⑥ 秋の長雨による停滞水の容易な排水。 |

m ² 当たり 目標莖数 早見表	田植機	1 株 の 平 均 莖 数 (白字がm ² 目標数値)					
	株セット	15本	16本	17本	18本	19本	20本
	50株	227	242	258	273	288	303
	60株	273	291	309	327	345	364

※カドミウム対策(湛水管理)・温室効果ガスの発生抑制を徹底するためにも適期中干しをしっかりと行って下さい。

8 水 稻 育 苗 後 の ハ ウ ス 利 用 （ 残留農薬:野菜等を栽培する場合の注意 ）

◎育苗後に野菜等を栽培する場合はハウス内で水稻箱施用剤散布や田植え後の育苗箱は使用を控えて下さい。

水 稻 除 草 剤 の 散 布 体 系 (例)

(※○数字は農薬成分数です)

代かき後	- 7 日	田 植 移 植	+ 5 日	+ 1 0 日	+ 1 5 日	+ 2 0 日	+ 2 5 日	
〈移植水稻〉 【一発除草剤】 ・水持ちの良い水田 ・一年生雑草から多年生雑草まで効く			③ベツカク (粒剤) ③ベツカク (豆つぶ・ジャンボ) ③コメット (粒剤・顆粒) ③コメット (ジャンボ) ③アシュラ (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ③ウイニングラン (粒剤・ジャンボ) ③カウントダウン (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ③イネリーグ (粒剤・フロアブル・ジャンボ)		※ベツカク(豆つぶ・ジャンボ)は+3日目から散布可能 ※コメット(ジャンボ)は+5日目から散布可能			
【初期剤+一発剤】 ・水持ちの悪い水田 ・多年生雑草の多い水田 ・前年に一発剤のみで多発生したほ場	※田植移植前に除草剤を使用する場合は、7日前までに行いましょう。	①ソルネット (粒剤) ①メテオ (粒剤・フロアブル) ①ピラクロン (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ②クラール (粒剤) ②ショキニー (粒剤・フロアブル・豆つぶ)		③ベツカク (粒剤・豆つぶ・ジャンボ) ③コメット (粒剤・顆粒・ジャンボ) ③アシュラ (粒剤・顆粒・フロアブル) ③ウイニングラン (粒剤・ジャンボ) ③カウントダウン (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ③イネリーグ (粒剤・フロアブル・ジャンボ)	③ベツカク (粒剤・豆つぶ・ジャンボ) ③コメット (粒剤・顆粒・ジャンボ) ③アシュラ (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ③ウイニングラン (粒剤・ジャンボ) ③カウントダウン (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ③イネリーグ (粒剤・フロアブル・ジャンボ)			
【初期剤+中期剤】 ・広葉・後発等の雑草が多発生するほ場は体系処理で対応		①ソルネット (粒剤) ①メテオ (粒剤・フロアブル) ①ピラクロン (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ②クラール (粒剤) ②ショキニー (粒剤・フロアブル・豆つぶ)			③ナイスミドル (粒剤) (※イネが4葉期以降～) ③ウィードコア (粒剤)			
【雑草イネ・漏生初対策】 ・前作と異なる品種を付ける圃場	※「荒代かき」と「本代かき」の間を7日以上あげると効果が高い。	①ソルネット (粒剤) ①エリジャン (乳剤・ジャンボ)		③ベツカク (粒剤・豆つぶ・ジャンボ) ③カウントダウン (粒剤・フロアブル・ジャンボ) ③イネリーグ (粒剤・フロアブル・ジャンボ)		③ナイスミドル (粒剤)		

※減農薬栽培米に取り組む方は、各方針作成者へお問い合わせください。

※藻・アオミドロ・表層はく離があるほ場では、フロアブル、ジャンボ、豆つぶ剤は薬害が発生しやすいので注意する。

(農薬使用上の注意事項)記載した農薬は令和5年4月1日の登録を基に掲載しております、最新の登録を確認し適正に使用しましょう。

◎健苗を均平なほ場に植え、土壌条件や水持ちに応じた除草剤を選択し、異常高・低温時には使用を避け均一に散布し薬害の発生を防止しましょう。

◎雑草は代かき時から発芽・生長し始めます。除草剤の効果がある時期を逃さないように適期に散布しましょう。

◎水田にたっぷり水を入れ散布し、処理後は落水・掛け流しをしないようにしましょう。

・薬剤処理前にはネズミ穴などないように畦畔を補修し、水尻もしっかり止め、たっぷりの水(4~6cm)を保って散布し湛水を維持しながら田面水を外に出さないような水管理を行って下さい。また散布後は7日間は止水し、落水・かけ流しを避けて下さい。処理層をきっちり形成し、雑草に薬剤成分をうまく吸収させる為です。

市のHPにも掲載



トラクターの公道走行はクリーンなタイヤで



ほ場から出るときは、タイヤ及びクローラの土を
しっかり落としてから公道に出しましょう。